

令和3年度 川口市行政評価外部評価委員会 評価対象事業総括表

(単位：千円)

部会	事業名 (事業担当課)	外部評価結果に対する 今後の事業展開 (事業担当課)		予算編成状況		予算額の推移	
		課題解決 への取組み	事業の 方向性	令和4年度 予算要求 [事業担当課]	予算編成 結果 [財政課]	令和 3年度	令和 4年度
第一部会	① 証明発行業務費 (市民課) 【P1~2】	改善	改善	増額 (要求額:109,060) 【増額理由】 委託化することに伴い見込まれる費用対効果から増額するもの	ほぼ要求額 どおり	65,878	109,027
	② 老人デイサービス センター指定管理者 管理運営費 (長寿支援課) 【P3~4】	抜本的 見直し	抜本的 見直し	増額 (要求額:113,921) 【増額理由】 債務負担行為に基づく要求であるため	要求額 どおり	109,784	113,921
第二部会	③ 葬祭事業 (保健総務課) 【P5~6】	現状維持	現状維持	減額 (要求額:19,000) 【減額理由】 過去の決算額に鑑み、減額したもの	要求額 どおり	21,030	19,000
	④ 海浜学園 施設運営費 (学務課) 【P7~8】	現状維持	現状維持	増額 (要求額:76,523) 【増額理由】 感染症対策のため増額したもの	要求額 どおり	75,337	76,523
少年自然の家 施設運営費 (学務課) 【P7~8】	増額 (要求額: 143,216) 【増額理由】 感染症対策のため増額したもの			要求額 どおり	136,077	143,216	

令和3年度 外部評価委員会からの評価に対する対応方針について

事業名	証明発行業務費	担当課	市民課	部会	第一部会
-----	---------	-----	-----	----	------

【外部評価結果に対する担当課における方針の概要】

1 外部評価結果に対する今後の事業展開について	①課題解決への取り組み	委員会	改善の必要あり
		担当課	改善
	②事業の方向性	委員会	概ね適正
		担当課	改善
<p>当初の予定通り、窓口業務、郵送請求業務の委託化を進める。 外部評価では、会計年度任用職員の活用などにより、コストを下げることも提案いただいたが、現在業務の流れの中に、会計年度任用職員が担う部分と委託業者が担う部分が混在していることから、手間や滞留が生じている。業務内容により担当を変えることによる目先のコスト削減よりも、それにより生じる滞留や労務管理や確認作業等に職員の手が割かれ、新たな事業を進められないことによる損失が大きいものとする。また定型化できる業務を委託化し、職員は政策的なことに関わる方針への転換は、長い目で見てコスト削減効果が大きく、また事業持続化にも寄与できるものとする。ことから、委託化の効果をより高めるためにも、委託化できるものについてはまとめて委託する一括委託の方向で進みたい。</p>			

2 令和4年度予算作成にあたっての考え方	予算計上の方向性	増額
<p>定型的なもの・反復的なものについては委託化できるよう、年度当初から業務の切り分けを行ない、全体業務量から、委託化する部分を除いた必要人員の割り出しを行なった。 委託に係る費用計上にあたっては、現行の委託内容を見直し、削減できるところは削減したうえで見積もりを徴している。 令和3年度と4年度の配置人数差から生じる人件費減額分（△68,331千円）と、委託拡充による委託費増額分（67,572千円）を比較したところ、ほぼ同額であることが分かった。 このことから、委託化の効果は短期的にも長期的にもあるものと考えており、令和4年度からは、単純作業の委託化により生じた余剰で、更に業務効率化が図れ継続化が担保されるよう、窓口で何度も書かずに手続きできるシステムや、キャッシュレス決済、セルフレジの導入などにも着手し、システム面での効率化を進める。</p>		

3 予算編成結果

予算要求額	109,027 千円
財政課の 予算編成結果	109,027 千円
その理由	委託化することに伴い、見込まれる費用対効果から前年度と比較し、増額となったが、証明発行等業務を委託することで得られた人員の減が、他業務の従事へと振り替わっているため、今後も課全体として業務の効率及び人員の見直しの検討を図ってほしい旨、付記事項とされた。

※（参考）当初予算額の推移

単位：千円

年度	当初予算額	前年度比
令和2年度	50,478	
令和3年度	65,878	15,400
令和4年度	109,027	43,149

令和3年度 外部評価委員会からの評価に対する対応方針について

事業名	老人デイサービスセンター指定管理者管理運営費	担当課	長寿支援課	部会	第一部会
-----	------------------------	-----	-------	----	------

【外部評価結果に対する担当課における方針の概要】

1 外部評価結果に対する今後の事業展開について	①課題解決への 取り組み	委員会	改善の必要あり
		担当課	抜本的見直し
	②事業の方向性	委員会	抜本的見直し
		担当課	抜本的見直し
<p>現在の指定管理期間終了（令和7年度）までに、老人デイサービスセンターの指定管理のあり方（段階的な廃止等）について検討する。</p>			

2 令和4年度予算作成にあたっての考え方	予算計上の方向性	現状維持
<p>指定管理の協定を締結している令和7年度までは予定通りとし、令和8年度以降については段階的な廃止等の検討内容に基づく。</p>		

3 予算編成結果

予算要求額	113,921 千円
財政課の 予算編成結果	113,922 千円
その理由	債務負担行為に基づく要求であるため、要求通りの予算額とするものの、指定管理に関して、協定期間中に見直しを実施すること。

※（参考）当初予算額の推移

単位：千円

年度	当初予算額	前年度比
令和2年度	123,947	
令和3年度	109,784	-14,163
令和4年度	113,921	4,137

令和3年度 外部評価委員会からの評価に対する対応方針について

事業名	葬祭事業	担当課	保健総務課	部会	第二部会
-----	------	-----	-------	----	------

【外部評価結果に対する担当課における方針の概要】

1 外部評価結果に対する今後の事業展開について	①課題解決への取り組み	委員会	改善の必要あり
		担当課	現状維持
	②事業の方向性	委員会	改善の必要あり
		担当課	現状維持
<p>事業の目的や事業内容については、市民のニーズ把握のため令和4年度に葬祭事業利用者やめぐりの森利用者へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて再検討を行う。 また、事業の更なる周知については、関係部署との連携に努め、具体的には、長寿支援課で発行している「エンディングノート」に掲載し、ノートの取得者又はその親族に向けて、当該事業のPRを図ることなどを想定している。</p>			

2 令和4年度予算作成にあたっての考え方	予算計上の方向性	現状維持
<p>令和4年度に行うアンケートの実施方法は、QRコードから回答する方法や、めぐりの森にアンケート用紙を設置する等の方法を想定しているため、アンケート関連の予算は計上しない。</p>		

3 予算編成結果

予算要求額	19,000 千円
財政課の 予算編成結果	19,000 千円
その理由	事業の目的や事業内容については、アンケート調査の結果を踏まえ、再検討を行うこととなっているが、アンケート調査自体に予算は必要ないため、予算編成に影響はない。なお、前年度と比べ要求額が減額している理由は、葬祭事業利用の過去の決算額に鑑み、減額したものの。

※（参考）当初予算額の推移

単位：千円

年度	当初予算額	前年度比
令和2年度	20,030	
令和3年度	21,030	1,000
令和4年度	19,000	-2,030

令和3年度 外部評価委員会からの評価に対する対応方針について

事業名	海浜学園施設運営費・少年自然の家施設運営費	担当課	学務課	部会	第二部会
-----	-----------------------	-----	-----	----	------

【外部評価結果に対する担当課における方針の概要】

1 外部評価結果に対する今後の事業展開について	①課題解決への取り組み	委員会	改善の必要あり
		担当課	現状維持
	②事業の方向性	委員会	改善の必要あり
		担当課	現状維持
<p>大貫・水上の2施設については、これまで長期にわたり当該地において校外教育が実施されてきた。</p> <p>現在、両施設において設備の経年劣化、施設自体の老朽化等は認識しており、維持費に多くの費用が必要な状況であることは学務課としても大きな課題として認識している。</p> <p>現在、昭和58年開館の大貫海浜学園は、築39年目、平成5年開館の水上少年自然の家は、築29年目となる中、設備関係の修繕や改修時期を迎えており、令和元年度から順次実施している。</p> <p>そのため、今後の事業展開としては、現在進行中の各改修工事が完了後から、法定耐用年数である15年を目安として、現在の方法による両事業の安定的な実施を優先することとする。</p> <p>また、それと並行して、これまでも実施してきた教育委員会内における2施設の今後の在り方や両事業の今後について等、いただいた評価も踏まえ、幅広い観点からの検討をさらに加速させていく。</p>			

2 令和4年度予算作成にあたっての考え方	予算計上の方向性	現状維持
<p>両事業の実施に当たっては、従来の2泊3日の実施日数による予算作成を基本とするものの、新型コロナウイルスの影響も大きく受けるため、予算の範囲内において可能な方法により実施していく。</p> <p>また、今後の安定的な事業実施や将来を見据えた両事業、両施設の在り方を計画的に検討するため、今行うべき修繕や改修のための経費を確保していく。</p>		

3 予算編成結果

	海浜学園施設運営費	少年自然の家施設運営費
予算要求額	76,523 千円	143,216 千円
財政課の 予算編成結果	76,523 千円	143,216 千円
その理由	両事業について、感染症対策のため主に寝具等借上料が前年度に比べ増額となっているが、更新設備の法定耐用年数である15年を目安に事業の方向性を決めていくという事業課の意向を踏まえ、要求通り認めるもの。	

※（参考）当初予算額の推移

単位：千円

海浜学園施設運営費			少年自然の家施設運営費		
年度	当初予算額	前年度比	年度	当初予算額	前年度比
令和2年度	74,207		令和2年度	130,255	
令和3年度	75,337	1,130	令和3年度	136,077	5,822
令和4年度	76,523	1,186	令和4年度	143,216	7,139